

調査地点別・調査項目および調査実施年度(動物モニタリング調査)

	調査地点数		1期計画					2期計画					調査範囲	調査内容	調査時期	調査頻度	目的
	柵内	柵外	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25					
<b>1. 植生タイプ別調査地点 I～VII(植生調査と同一)</b>																	
<b>1-1. 哺乳類</b>																	
(a) 地表性小型哺乳類	8	6	○		○					●			20m×20m	種名、個体数、繁殖状況	6月、10月	1回/5年	植生の変化による影響を受けやすい地表性小型哺乳類を対象に、各植生タイプにおけるその種構成の変化を評価する。また、防鹿柵の内外における種組成及び個体数を把握することで、防鹿柵の効果を検証する。
<b>1-21. 鳥類</b>																	
(a) 区画センサス	8	6	○		○					●			30m×30m	種名、滞在時間、行動(採餌、営巣等)	6月	1回/5年	各植生タイプにおける鳥類の生息状況(種、個体数、行動等)から森林再生の進行状況の評価。また、防鹿柵内外における種数及び個体数を把握することで、防鹿柵の効果を検証する。
(b) テリトリーマッピング	6ルート		○		○					●			ライン:約1km	種名、さえずり個体の確認位置	6月	1回/5年	各植生タイプにおける鳥類の生息状況(種、個体数、テリトリー推定等)から、森林再生の進行状況の評価。
<b>1-2. 昆虫類等調査</b>																	
(a) 地表性甲虫類	8	6	○	○	○					●			30mライン	種名、個体数	5月、7月、9月の毎月1回	1回/5年	移動分散能力が低く環境指標性の高いオサムシ科甲虫を定量的に把握し、森林再生の進行状況の評価。また、各植生タイプにおける群衆の変化を評価し、防鹿柵の効果を検証する。
(b) 大型土壌動物	8	6	○	○	○							●	1m×1m×5	種名、個体数	9月	1回/5年	各植生タイプにおける大型土壌動物の生息状況(種数、個体数等)を把握し、森林再生の進行状況の評価。
(c) ガ類	7	0	○					○					1ヶ所に誘引	種名、個体数	6月～10月の毎月1回・新月の夜	1回/5年	各植生タイプにおけるガ類の生息状況(種数、個体数等)を把握し、森林再生の進行状況の評価。
(d) 食材性昆虫	8	6	○	○	○			○					1ヶ所に誘引	種名、個体数	6月～8月の毎月1回	1回/5年	各植生タイプにおける、キクイムシやカミキリムシ等の甲虫類やキバチ等ハチ類を主体とする衰弱木や枯死木等に依存する甲虫類の生息状況(種数、個体数等)を把握し、森林再生の進行状況の評価。
(e) クモ類	8	6	○	○	○					●			10m×10m	(地表、草本、樹木別の)種名、個体数	6月、10月	1回/5年	各植生タイプにおける、クモ類の生息状況(種数、個体数等)を把握し、森林再生の進行状況の評価。また、防鹿柵内外の種数、個体数を把握することで、防鹿柵の効果を検証する。

調査地点別・調査項目および調査実施年度(動物モニタリング調査)

	調査地点数		1期計画					2期計画					調査範囲	調査内容	調査時期	調査頻度	目的
	柵内	柵外	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25					
<b>2. 地域特性把握調査</b>																	
<b>2-1. 哺乳類</b>																	
(a) 地表性小型哺乳類	任意の数地点	○								●				種名、繁殖状況	6月、10月	1回/5年	大台ヶ原地域における地表性小型哺乳類の生息状況(種、個体数等)を把握し、その長期的な変化を評価する。
(b) コウモリ類	任意の数地点	○						○						種名、繁殖状況	夏季	1回/5年	大台ヶ原地域におけるコウモリ類の生息状況(種、個体数等)を把握し、その長期的な変化を評価する。
(c) 中・大型哺乳類(自動撮影)	対照区I~VII +数地点	○					○						●	写真撮影、種名	秋季	1回/5年	大台ヶ原地域における中大型哺乳類の生息状況(種)を把握し、その長期的な変化を評価する。
〃 (痕跡)	5ルート					○							●	ライン:約1km 種名、確認位置	春季、夏季、秋季	1回/5年	
(d) 樹上性小型哺乳類	6ルート	○						○						ライン:約1km 種名、確認位置	6月に設置、10月に回収	1回/5年	レッドリストに準絶滅危惧種として掲載されている日本固有種であり、成熟した森林に生息するヤマネを対象とし、その生息状況(個体数)を把握して、長期的な変化を評価する。
2-2. 爬虫類		○	○	○	○	○				●				種名、確認位置	4月~6月	1回/5年	大台ヶ原地域における爬虫類・両生類の生息状況(種、個体数、生息密度、水質との相関等)を把握し、その長期的な変化を評価する。
2-3. 両生類		○	△	△	○					●				生息・繁殖状況	4月~6月	1回/5年	
2-4. 昆虫類等																	
(a) 希少種・固有種・指標種		○	○	○			○	△	▲	▲	▲			種名、確認位置等	昆虫調査時に適宜実施	適宜	植生タイプ別調査における昆虫類等調査実施時に発見された希少種・固有種・指標種について、発見地点及び生息状況(主に種、個体数)を記録する。
<b>3. 西大台モニタリング調査</b>																	
a 土壌動物調査	2地点 V-3, V-4					○	○							分類群毎個体数	9月	初期毎年、 1回/5年	利用調整地区設定による歩道周辺における土壌動物への負荷の軽減具合を把握する。

○:調査済み ●:調査予定 ▲:他調査に付随して実施

調査地点別・調査項目および調査実施年度(動物モニタリング調査)案

	調査地点数		1期計画					2期計画					3期計画					4期計画					調査範囲	調査内容	調査時期	調査頻度	目的								
	柵内	柵外	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35													
<b>1. 環境指標種調査</b>																																			
1-1. 鳥類																																			
テリトリーマッピング	7	ルート	○			○					●																	ライン:約1km	種名、さえずり個体の確認位置	6月	1回/5年	S44当時優占していた種を参考とし、各植生タイプにおける鳥類の生息状況(種、個体数、テリトリー推定等)から当時と比較して、森林生態系の回復状況を評価する。			
1-2. 昆虫类等調査																																			
地表性甲虫類	8	4	○	○	○					○																		30mライン	種名、個体数	6月、7月、9月の毎月1回	1回/5年	移動分散能力が低く環境指標性の高いオサムシ科甲虫を定量的に把握し、森林生態系の回復状況を評価する。			
大型土壌動物	H24年従来通り実施(内8外6)→試行調査後に確定		○	○	○																							1m×1m×5	種名、個体数	9月	1回/5年	各植生タイプにおける大型土壌動物の生息状況(種数、個体数等)を把握し、主に土壌の定着状態における観点から森林生態系の回復状況を評価する。			
ガ類	6	0	○																									1ヶ所に誘引	種名、個体数	5月～9月の毎月1回・新月の夜	1回/5年	各植生タイプにおけるガ類の生息状況(種数、個体数等)を把握し、主に植物の種の多様性との関連から、森林生態系の回復状況を評価する。			
クモ類	8	4	○	○	○																							10m×10m	(地表、草本、樹木別の)種名、個体数	6月、9月	1回/5年	各植生タイプにおける、クモ類の生息状況(種数、個体数等)を把握し、主に森林の階層構造や、昆虫類の数の観点から、森林生態系の回復状況を評価する。			
<b>2. 動物相把握調査</b>																																			
大台ヶ原の動物相把握調査																																	種名、確認位置等	1回/10年	森林生態系の回復状況を評価するため、10年に1度、大台ヶ原の動物相・群集の変化を把握する。

○:調査済み ●:調査予定 ▲:他調査に付随して実施